

岩手山の火山活動について

火山性微動の発生等岩手山の火山活動に変化が見られることから、本日火山噴火予知連絡会拡大幹事会を盛岡地方気象台で開催し、岩手山の火山活動について次の見解をまとめた。

岩手山では、11月12日20時54分から約4分間振幅の大きな火山性微動が観測された。微動発生中及びその後地震が多発したが、次第に減少し、2時間程で微動前の回数に戻った。このように大きな微動は昨年7月10日以来のことであった。多発した地震の震源は、西岩手山の姥倉山―黒倉山付近の地表から深さ2～3kmの所である。

今回の微動は昨年7月10日の微動と波形、振幅、継続時間等が似ており、地中の同じような場所で似たような現象が起こったものと考えられる。微動中の地震の規模は昨年7月がM2.4、今回がM2.1であったが、M2.4の地震を除けば概して今回の微動の方が振幅がやや大きかった。

微動と同時の約4分間、山麓の傾斜計・歪計に変化が見られ、地中で断層運動や流体の移動があったことを示唆している。その後本日までこれら傾斜計・歪計には特別の変化は見られていない。GPS観測では、微動中もその後も変化が認められなかった。

黒倉山―姥倉山地域の噴気温度連続観測によれば、微動の前後に変化は見られなかった。

12日夜の表面現象は夜間であったためよくわかっていない。翌13日早朝に黒倉山で噴気増大が見られたが、09時頃に行われたヘリコプター観測では、噴気に大きな変化は見られず、火山灰等も見られなかった。

西岩手山では、今年5月前後から大地獄谷―黒倉山―姥倉山地域を中心に次第に噴気活動が活発化しており、10月以降噴気増大現象の頻度、量、噴気領域が増大している。9月以降大地獄谷で浅い地震が増加している。このような状況の中で今回の微動が発生した。10月の火山噴火予知連絡会統一見解でも述べたとおり、水蒸気爆発の可能性のある状態が続いている。

今後も引き続き火山活動の推移を注意深く見守る必要がある。